

# 「子供の森」計画

in インド



「子供の森」計画積極展開地域：  
北インド・ニューデリー周辺、南インド・ケララ州周辺

## 2012年の活動と2013年の展望

子どもたちの「自然を愛する心」を育みながら地球緑化を進める「子供の森」計画。人口大国インドでは、急速に進む都市化の中で多くの子どもたちに、地球環境問題や自然・緑の大切さ、植林など実際に行動することの大切さを教えています。教育熱心な同国の気風に合わせて「子供の森」計画でも環境に関するポスターや作文のコンテストなどを実施し子どもたちのやる気を引き出しながら活動を進めています。また校庭で郷土のハーブを育てたりその効能を学んだりしながら、地域の植物種の保全にも力を入れています。

近年、都市部で特に問題となっているのは大気汚染や水

質汚濁、そしてゴミの問題などです。このような問題は、一人ひとりが意識をもって日々の生活を送り、また行動することが解決への第一歩となります。「子供の森」計画では、自然を愛する心を育てるとともに、子どもたち自身が、自分たちの生活環境のために、そして未来のふるさとの環境のために実際に行動できるように育てていきたい、そして、子どもたちだけでなく、その行動が地域へも広がるよう、働きかけていきたいと考えています。

2012年植林実績：植林 17,358 本・面積 48.98 ha  
「子供の森」計画参加学校数：1,937 校（1992年からの累計数）

## 2012年までの植林実績



## インド

- ◆人口：1,206.917百万人  
(2012年IMF推計値 日本は127.896百万人)
- ◆面積：3,287,263km<sup>2</sup>  
(総務省統計局資料2010年値 日本は377,950km<sup>2</sup>)
- ◆一人当たりGDP：1,513.618US\$  
(2012年10月IMF試算値 日本は45,869.72US\$)
- ◆森林率：23%  
(2010年FAO公表値 日本は69%)



インドの活動を支援して下さる方を募集しています。  
ご支援や各地域の子どもたちの活動の様子はこちらから

**ベルマークや書き損じはがきも募集しています。**  
ベルマークは1点1円として「子供の森」計画の支援となります。  
事務局までお送りください。

➔ 「子供の森」計画情報提供サイト  
[www.kodomonono-mori.info](http://www.kodomonono-mori.info)



事務局



公益財団法人  
**オイスカ**

〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12  
☎(03)3322-5161 ☎(03)3324-7111  
<http://www.oisca.org/>

E-mail [oisca@oisca.org](mailto:oisca@oisca.org)





## 活動を地域にも広げよう

ヴィドヤラヤ学校のラブグリーンクラブは「木を植える」活動をキャッチフレーズに掲げ、日々活動に取り組んでいます。その熱心な姿に感銘を受けた校長先生は今年、学校全体に“一人が一本木を植える”という目標を掲げました。そして近隣の住民たちの環境保全に対する意識を高めるために、子どもたちに地域での植林活動と呼び掛けました。そして2012年7月11日、子どもたちはヴィドヤラヤ学校の校門から近くのグハムック村までの道路の両側に約80本の

苗木を植えました。土が硬いところなどは大変苦労しながらも植林活動を終えた子どもたちは地域社会に貢献できたことにとても満足そうでした。またラブグリーンクラブのメンバーは12



固い土を掘るのは男の子が頑張ってくれました

月には地域の鉄道駅の環境美化活動に名乗りをあげ、ゴミや雑草の撤去や植樹されている木の手入れなどを行いました。子どもたちは、社会の中での自分たちの役割を考えながら、地域全体の環境保全・保護活動を進めています。



校長先生と一緒に木を植えました



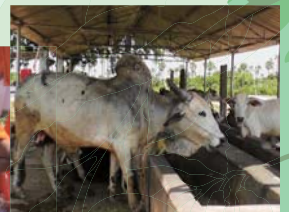
## 自然とともにある暮らしを学ぶ学校

サラスワティー学校は、アンドラ・ブラデッシュの部族の子どもたちのための寄宿舎を備えた学校で18エーカー（約7.3ha）の広大な敷地を持っています。そこでこの学校では2010年よりオイスカの協力を得て「子供の森」計画に参加し、今までに800本の植林を行ってきました。また乳牛の飼育や、堆肥場、雨水貯水池、そして薬草栽培のための畑なども敷地内に併設し、子どもたちは、自然をどのように活かしながら生活を営んでいくかを学んでいます。植林活動と併せ牛の飼育や薬草づくりにも取り組んでいるこの学校には多くの人が見学を訪れます。子どもたちは訪問者に絞りをたての牛乳をプレゼントしたり、アンドラ・ブラデッシュの民族舞踊を披露したりして歓迎し、そして自分たちが植林した自慢の木々を紹介します。日差しが強くと暑いばかりであった校庭に緑が増え、木陰ができ涼しい

さわやかな空気が学校中に流れるようになったとうれしそうに報告する子どもたち。木々や自然の役割を学びながら暮らすこの経験は、学校を卒業してからも自分たちの地域での実践につながることでしょう。



校庭に木を植え未来の緑あふれる学校に想いを馳せる子どもたち



牛の世話は子どもたちが交代で行っています

## TOPICS

### 国連持続可能な開発会議（リオ+20）でインドの子ども代表が発表

2012年6月に開催された同会議にオイスカも参画し、サイドイベント等において、自然風土さらには地球全体と生計活動などの人間の営みとの共生を実現する場として「ふるさと」を掲げ、持続可能な開発の理想的なモデル「ふるさとづくり」を提唱しました。そして、その重要な役割を担うのが子どもであり、「子供の森」計画はその手法として非常に有効であることを発表しました。またインドのアグラ学校のラジャット君（16歳）が登壇し、学校での活動を発表するとともに、「自分の地域や国、そして地球全体を私たち子どもが“ふるさと”として守るための行動を起こさなければならない」と訴え、「子供の森」計画に参加している子どもたちの大きな志を世界へ発信しました。



ジャパンパビリオンでメッセージを発信するラジャット君（右）

子どもたちの活動の様子や国情報の一部を紹介しています。

他のレポートや地域の情報はホームページをご覧ください。



OISCA CFP

検索